

シンポジウム「健康寿命の延伸に対する取り組み—20年のあゆみとこれから—」

健康寿命延伸に対する取り組み
— 栄養の視点から —



永井 徹

新潟医療福祉大学 健康栄養学科 教授

少子高齢化が進む現在、健康寿命の延伸を実現するには、生活習慣病の予防とともに、高齢になっても社会生活を営むための機能を可能な限り維持することが重要である。また、高齢者固有の特性を踏まえ、栄養状態維持の予防的介入および誤嚥性肺炎予防に焦点を当てた取り組みの強化が、厚生労働省「保健医療2035提言書」に示されている。このような背景から、地域高齢者に対する栄養の支援は喫緊の課題である。

私は臨床現場において、多職種によるチーム医療が、栄養不良患者を転帰良好に改善させることをしばしば経験した。一方では、地域高齢者に関わる栄養支援活動を行うことで、医療の外では不安を抱えている地域高齢者が多く存在することを気づかされ、「周囲に低栄養の人が多くなって心配だ」「味がおかしい」「薬（錠剤）を飲む際に不安を感じる」など多面的な不安を抱える高齢者が多いことを理解した。さらには、「どこに相談したらよいのか」と悩む高齢者も少なくなかった。不安を解決するには地域の専門職による集学的チームが必要と考え、志をともにする多職種集団「新潟高齢者の栄養と摂食を支える会（新潟e3）」を立ち上げて活動を開始した。現在はフレイル・サルコペニア予防に焦点をあて、新潟県内の医療職、新潟医療福祉大学の教員および学生により、商店街などのさまざまな場所で地域高齢者にむけて支援活動や実践教育を行っている。取り組みと課題について報告する。

<略歴>

1986年から国立病院勤務（国立長野病院、国立栃木病院、国立犀潟病院、国立渋川病院、国立甲府病院）
2003年 国立西新潟中央病院栄養管理室長
2009年 国立千葉東病院栄養管理室長
2009年 国立病院機構本部 関東信越ブロック事務所統括部医療課 栄養専門職併任
2013年 新潟医療福祉大学健康栄養学科 准教授
2020年 新潟医療福祉大学健康栄養学科 教授

<資格>

管理栄養士、栄養サポートチーム専門療法士、博士（保健学）

<社会活動>

新潟県栄養士会理事、新潟県栄養士会研修部長、新潟高齢者の栄養と摂食を支える会事務局、
向陽メディカルクリニック 非常勤勤務

<学会活動>

日本臨床栄養代謝学会、日本病態栄養学会、日本摂食嚥下リハビリテーション学会、日本栄養改善学会